

英語による英語の授業とは

—第7回全国模擬授業大会・国際大会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：今年の足利市での全国模擬授業大会では、韓国の高校の現役の先生による英語による英語の授業が行われたそうですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。5月26日、27日に栃木県足利市で開催させて頂いた第7回全国模擬授業大会は、国際大会とし、韓国の有名私立高校であるソウル昌文女子高等学校から金鐘旭先生と李濬一先生のお二人をお招きし、英語による英語の授業をして頂きました。初日の5月26日には50分の授業を、27日にはダイジェスト版の15分の授業をすべて英語でして頂きました。

高3の授業は読解力、高2の授業はコミュニケーション能力を身に付けさせるためのもので、教材はA4を数枚お使いになりました。極めてよく準備された内容の濃い授業と高く評価させて頂きました。

Q：英語による英語の授業はどうでしたか。

A：参加された学習塾・予備校・私立学校・教育委員会の先生方の多くは、英語による英語の授業が初めてだったためか、少し難しいとの感想を持たれたようです。

お二人の先生に、失礼もかえりみず「韓国の高校生は、先生の英語による英語の授業が理解できますか」と質問させて頂いたところ、「はい。教えている生徒に理解できる英語で授業をしています」とのお答えでした。なぜそのような質問をするのかと、不思議そうでした。

また、韓国では高校の英語の授業のほとんどは英語でなされているとの御説明でした。

Q：林さんは、なぜ全国模擬授業大会で英語による英語の授業をするように御依頼したのですか。

A：いよいよ日本でも、来年度から高校の英語の授業は英語であることを文科省が奨励しているからです。若者を中心に急激に英語によるコミュニケーション能力が身に付いている韓国では、英語による英語の授業がどのようになされているのかを実際に見させて頂き、日本の英語教育のあり方を御一緒に考えたかったからです。

Q：レベルはどうでしたか。

A：私は1996年から5年間以上、上智大学公開学習講座(コミュニティカレッジ)の英語中級の上クラスと、上級クラスで毎週数回英語を学習しました。韓国の高3クラスは上智大学の上級クラス、高2クラスは中級の上クラスとほぼ同じレベルのように思えました。

お二人の先生が教えていらっしゃるソウル昌文女子高校は韓国でも有名な進学校であるため、生徒の学力が極めて高く、英語のコミュニケーション能力を向上させるために先生方の授業にも熱が入っているようです。

高 3 は英語の読解の授業でしたが、先生は何も見ずに文章や語句の意味をどんどん別のわかりやすい英語の表現で説明していました。

高 2 の授業は数多くのグループワークが予定され、コミュニケーション能力が確実に身に付くように思われました。

Q：日本の英語の先生方に期待することは何ですか。

A：英語の授業を英語で教えているのは、韓国だけではなくありません。中国でも、インドでも、ベトナムでも、インドネシアでもごく初級レベルを除いては、英語の授業のほとんどを英語で行っているようです。

日本人の英語が世界レベルから見て大幅に劣るのは、英語の先生自身の英語によるコミュニケーション能力が劣るからかもしれません。一日も早く韓国はじめ他の国々の先生と同じレベルにまで追いつくように努力することが求められます。

英語の先生は英語による授業を目指すべきです。その第一歩として、今教えている学校・学習塾・予備校の教科書やテキスト、問題集に出てくるすべての語句を初心者向けの「英英辞典」で調べ直すことをお勧めします。

朝日新聞社が配達してくれる「ヘラルド・トリビューン」や読売新聞社で出している「デイリー・ヨミウリ」などの英字新聞を自宅で自分の費用で購読し、スミからスミまで読み通すこと。気になる記事は切り取り、英英辞典を用いて徹底的に調べ、調べた内容はメモをして暗記すること。英英辞典で一日に 100 語以上調べ、確実に身に付ければ、アツという間に韓国の英語の先生のレベルにまで到達すると私は確信します。

以前に NHK のラジオ英語会話の御担当であった松本亨先生の松本亨英語専門学校で行っていたような 2 泊 3 日や 3 泊 4 日の英語合宿を自分たちで企画し、英語のみによる生活を年に何回かは体験することも有効と考えます。

こわがることなく、今日から何分間かでも自分の英語の授業を英語でやってみる勇気をお持ち頂ければと、何よりも子どもたちのために希望します。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：今回の全国模擬授業大会は、愛知県の野田塾の独り勝ちでした。塾生数 1 万名を超える野田塾の先生方のほぼ全員がトーナメント方式で各科目の代表者を決め、今回の大会に臨んで頂いたためと思われる。

このことを聞いた今回参加の数多くの学習塾は、より厳しい選考を経て 10 月 8 日の第 2 回全国模擬授業大会 IN 名古屋に臨むものと思われる。

お一人でも、また、どなたでも御参加できる足利市での全国模擬授業大会は来年も 5 月下旬に開催の予定です。「教え方日本一、チョーク一本で教育改革を」をスローガンとしたこの大会を活用し、自らの能力強化と、地域の教育力向上をお図り頂ければ幸いです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：3.11 以来、世界の人口爆発を直前にしてエネルギーをどうするかが、日本や世界が取り組むべき最大の課題となっています。この課題に真正面から取り組んだダニエル・ヤーギン著「探究－エネルギーの世紀－」（上下）日本経済新聞社発行は、必読書と言えます。原著は「The Quest」で、わかりやすい標準的な英語です。

企業経営者としての取り組みには、私の尊敬する三菱ケミカルホールディングス社長の小林喜光氏著「地球と共存する経営－MOS 改革宣言－」が参考になります。御一読下さい。

「第7回全国模擬授業大会・国際大会」ではお世話になり、ありがとうございました。